

目 次

- 1 解けた誤解
- 2 本校の総合学習における取り組み
- 3 育成が期待される具体的な能力・態度との関連
- 4 キャリアの蓄積と継続, そして発展
- 5 いつでも, どこでも, なんとでも

1 解けた誤解

もっとずっと広い・・・！

8月に行われたキャリア教育セミナーに参加して、それまでなんとなく抱いていたキャリア教育のイメージが間違っていたことに気づきました。「職業」といってしまうのでイメージが狭くなってしまいがちですが、セミナーで「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み」を知り、キャリアの範囲はもっとずっと広いということが分かりました。

社会人力！？

それを一言で表現するのはとても難しいのですが、うんと縮めてしまうとこんな感じでしょうか。

「どうしたらいいのか、みんなと協力しながら必要な情報を集めて検討し、決めたことに対してそれぞれが責任を持って、最後まで粘り強くやり通す力」

つまりキャリアとは、自立した社会人となっていくために必要な力、そして学校はそれを学ぶ場であったわけです。

新しい教育じゃなくて・・・

もう一つ勘違いしていたことがあります。最近キャリア教育という言葉聞くようになったので、学校で現在やっていることの上に、さらにキャリア教育という新しい教育を加えなければならないのかと思っていました。しかし、セミナーの発表や講演を聞いて、キャリア教育とは何も特別に「キャリア教育の時間」というものを設けたりするのではなく、教科活動や特別活動、学校行事などすべての教育活動の中でいろんな機会をとらえて行われるものであり、しかもそれはずっと前から学習指導要領にも書いてあったということを知りました。

キャリア教育実践の手がかり

ならば、本校の総合学習においても、キャリア教育を実践する機会はあるはずです。今まで、キャリア教育をやっているという意識は全くなかった私たちですが、もう一度、キャリアという視点で見直してみたら、そこに実践の手がかりが見つかるかもしれない。そんな思いから今回の作業は始まりました。しかし、その結果は当初の予想を超えるものでした。

2 本校の総合学習における取り組み

6年目にして

本校の総合学習は、試行の期間も含めて今年で6年目になります。職員会議や研修会、係会でのプログラム開発などを通して、総合学習で生徒たちにどのような力をつけたいのかということが、少しずつ見えてきました。

学習のねらい

そこでまず、そのねらいとキャリア教育との間にどのような関連があるのかということを確認することにしました。以下に、本校で使用している総合学習用ノート（「想造ノート」）から学習のねらいに関する部分を抜き出してみました。どうでしょう？関連はあるでしょうか？

- ◎ **どんなに素晴らしい知識も頭の中にしまい込んでいるうちは「眠っている」のと同じこと。その知識を具体的な行動に結びつけ、自分や周りの人たちがよりよく生きるために生かすことができた時、その知識は「生きた知識」となって輝くのです。そう、「総合学習」とは、今まで吸収してきたたくさんの知識を、社会に働きかける道具として生かしていくことを体験する教科なのです。**（想造ノート生徒版「総合学習について」より）

- ◎ **総合学習には、「社会とつながる」という役割も期待されています。**学んだ知識をただ知識として眠らせるのではなく、実社会の中でそれをどう生かしていくのかを知る経験の場としての役割です。この「職業・地域講座」は、知識を実社会の中で生かしながら仕事をしている「仕事人」に講師として来ていただき、熱く語ってもらおうという単元です。（想造ノート教員版「職業・地域講座指導資料」より）

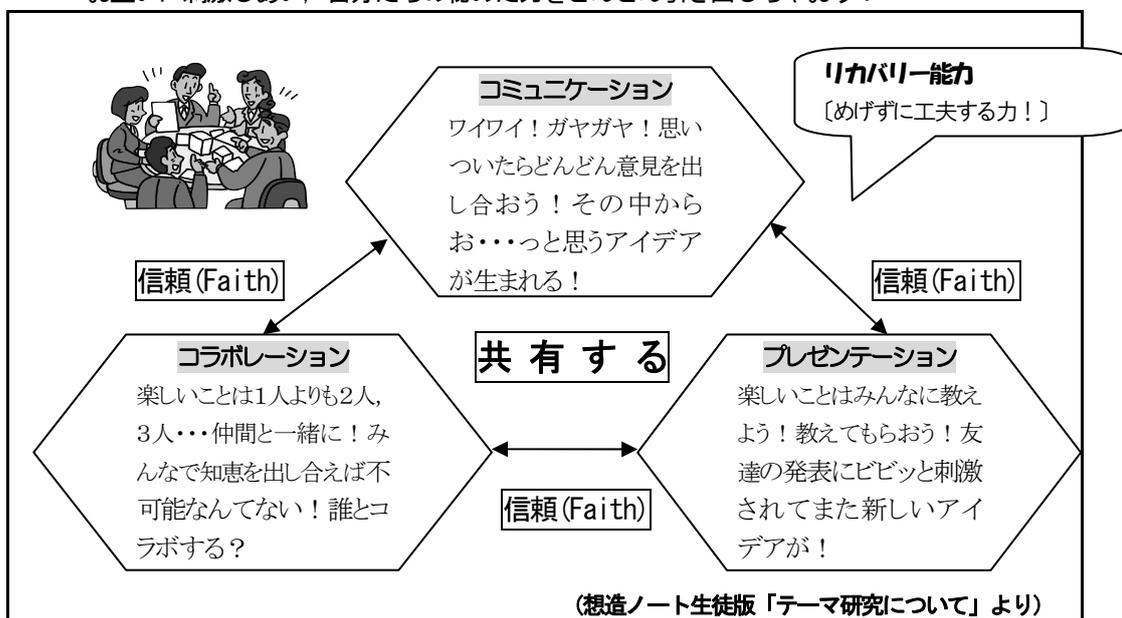
- ◎ 1年次の「職業・地域講座」では、「社会とつながるとはどのようなことなのか」ということを「仕事人」のお話を通じて生徒たちに実感してもらいました。2年次のこの単元では、大学という研究の最前線で活躍していらっしゃる先生方の話を聞くことで、「知識や研究が、どのように社会とつながっていくのか、社会をよりよくする力となっていくのか」ということを知ってもらいたいと思います。

(想造ノート教員版「大学等模擬授業指導資料」より)

- ◎ 「テーマ研究」は、総合学習の大きな柱である「気づき・考え・行動する」力が最も必要とされる単元です。これまで「福祉体験」各種「講座」「職業・上級学校研究」「講演会」を通して蓄積してきた多様な価値観や発想・スキルを思う存分発揮し、大胆に社会に切り込む研究テーマを設定しましょう！

(想造ノート生徒版「テーマ研究について」より)

- ◎ 1人では難しいことでも、仲間と力を合わせれば、不可能ではなくなるのです！さあ、**総学の3つのツール「コミュニケーション」「コラボレーション」「プレゼンテーション」**を使って、お互いに刺激しあい、自分たちの秘めた力をどんどん引き出しちゃおう！



今までやってきたものの中に・・・

これらからも分かるように、本校では「総合学習とは、教科で学んだ知識や方法を、具体的な場面を通して学び直す場である」と位置づけ、その観点から様々な学習プログラムを実践してきました。だから8月のセミナーで、

「学ぶこととはたらくことをどうつなぐのか!？」

「学校と社会をどうつなぐのか!？」

「社会の中で生かせる学力でないと、本当の学力ではない」

という宮下先生の言葉を聞いた時はびっくりしました。と同時に、キャリア教育とって、何か特別なことをする必要はないのだと安心しました。私たちが今まで実践してきたものの中に、キャリア教育の手がかりはあったのです。

3 育成が期待される具体的な能力・態度との関連

次に、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み」と、本校1年生の総合学習年間計画を比較し、各単元の、どこで、どの能力や態度の育成が期待されるのかを、もう少し細かく確認してみることになります。(次ページの表は、「学習プログラムの枠組み」から高等学校の部分を抜粋したものです。また、便宜上A～Dの記号と①～⑦の番号を付け、職業観・勤労観の育成との関連が特に強いものを上に並べ替えました)

「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み」

職業的（進路）発達段階			現実的探索・試行と社会的移行準備の期間
<p>発達課題</p> <p>各発達段階において達成しておくべき課題を、進路・職業の選択能力及び将来の職業として必要な資質の形成という側面から捉えたもの。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 自己理解の深化と自己受容 選択基準としての職業観・勤労観の確立 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実吟味と試行的参加
職業的（進路）発達にかかわる諸能力			職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度
領域	領域説明	能力説明	
人間関係形成能力【A】	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む	<p>【自他の理解能力】</p> <p>自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①自己の職業的な能力・適正を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする ②他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる ③互いに支え合い分かり合える友人を得る ④異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る ⑤リーダー・フォロアーズを發揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める ⑥自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する ⑦新しい環境や人間関係を生かす
		<p>【コミュニケーション能力】</p> <p>多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力</p>	
情報活用能力【B】	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす	<p>【情報収集・探索能力】</p> <p>進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め、検討する ②就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する ③職業生活における権利・勤務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる ④調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する ⑤就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む ⑥社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する ⑦多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める
		<p>【職業理解能力】</p> <p>様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力</p>	
将来設計能力【C】	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する	<p>【役割把握・認識能力】</p> <p>生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす ②ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する ③将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する ④生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える ⑤職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する ⑥将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む
		<p>【計画実行能力】</p> <p>目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力</p>	
意思決定能力【D】	自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する	<p>【選択能力】</p> <p>様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ ②多様な選択肢の中から、自己の意思と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する ③進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する ④選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす ⑤将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む ⑥自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する ⑦理想と現実との葛藤経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身につける
		<p>【課題解決能力】</p> <p>意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力</p>	

「想造年間計画（1年生）」

	単元	学 習 内 容			育成することが期待される 具体的な能力・態度との関連	
		項 目	活動単位	活 動 内 容		
一 学 期	福祉体験	福祉体験①	クラス	ガイダンス ワークシートを使って福祉について考える	A-②	
		福祉体験②	学 年	実習（アイマスク介助・アイマスク卓球）	C-①	
		講演会①	全 校	福祉に関する講演を聴く	A-②	
		福祉体験③	クラス	まとめと評価	D-④⑦	
	職地講座	職業/地域講座①	各講座	講師への質問を考える	A-④⑥ B-⑥ D-②	
		職業/地域講座②	各講座	お話を聞く	A-② B-②③⑦ D-①	
		職業/地域講座③	各講座	まとめと評価	D-④⑦	
	夏	職業研究	職業研究①	クラス	ガイダンス	C-②
			職業研究②	クラス	ワークシートを使って仕事について考える	A-① B-①
			職業研究③	クラス	職業インタビューの準備	A-① B-① C-④
職業研究④			各 自	職業インタビュー実施	B-②③⑥⑦	
職業研究⑤			クラス	グループ内で発表する 代表者を選出する	B-④	
職業研究⑥			クラス	グループ代表者の発表準備をする	A-③④⑤⑥⑦	
職業研究⑦			クラス	クラスで発表する まとめと評価	B-④ C-③ D-④⑦	
二 学 期	テーマ研究	講演会②	全 校	テーマ研究に関する講演を聴く	A-②	
		テーマ研究①	クラス	ガイダンス	C-②	
		テーマ研究②	学 年	個人プランを考える	B-① C-③ D-②④	
		テーマ研究③	グループ	個人プランをチームプランへ発展させる	A-①～⑦ C-① D-②④	
		テーマ研究④	グループ	フローチャートを作り仕事の段取りを考える	A-③④⑤ D-⑥⑦	
		テーマ研究⑤	グループ	検討会を通してチームプランを練り上げる	A-④⑤⑥ D-⑥⑦	
		テーマ研究⑥	グループ	研究活動1	A-③④⑤ B-② C-①	
		テーマ研究⑦	グループ	研究活動2		
		テーマ研究⑧	グループ	研究活動3		
		テーマ研究⑨	グループ	中間発表を通して軌道修正する	D-⑥⑦	
三 学 期		テーマ研究⑩	グループ	研究活動4	A-③④⑤ B-② C-①	
		テーマ研究⑪	グループ	研究活動5		
		テーマ研究⑫	グループ	発表会準備1	A-③④⑤⑥⑦ B-② C-①	
		テーマ研究⑬	グループ	発表会準備2		
		テーマ研究⑭	グループ	発表会1	A-②⑤⑥ B-④ C-①	
		テーマ研究⑮	グループ	発表会2		
	テーマ研究⑯	全 校	学年代表発表会			

こうしてみると、単元内のあらゆる場面で、具体的な体験を通してキャリアを身につける機会があることが分かります。しかも、単元の特徴をいかしながら、4領域がバランスよく学べるようになっていると思いませんか？

4 キャリアの蓄積と継続、そして発展

この学習が2年～3年へとどのようにつながっていくのか、その流れを簡単にまとめたのが以下の表です。キャリアは年間を通して蓄積・発展し、学年を経ながら継続・発展していくようになっていることがわかると思います。



	1年次	2年次	3年次	期待される主な能力・態度
共生 生き方 研究	福祉体験 アイマスク介助 アイマスク卓球 講演会 まとめ 自己評価	福祉体験 車椅子介助 模擬体験 講演会 まとめ 自己評価	福祉体験 講演会	【人間関係形成能力】 自他の理解能力 コミュニケーション能力 【将来設計能力】 役割把握・認識能力
	職業・地域講座 仕事とは 質問を考える お話を聞く まとめ 自己評価	大学等模擬授業 大学の研究とは 質問を考える 授業を体験する まとめ 自己評価	ディベート 基本ルール 立論とプラン 調査 ディベートマッチ まとめ 自己評価	【情報活用能力】 情報収集・探索能力 職業理解能力 【将来設計能力】 役割把握・認識能力 【意思決定能力】 課題解決能力
	職業研究 適性を知る アポイントメント インタビュー実施 発表 自己評価 相互評価	上級学校研究 適性を知る 調査 オープンキャンパス レポート 自己評価	面接体験 面接の基本 評価のポイント 相互面接 自己評価 相互評価	【人間関係形成能力】 コミュニケーション能力 【情報活用能力】 情報収集・探索能力 職業理解能力 【意思決定能力】 選択能力
テーマ研究 プラン フローチャート 研究 調査・実験 中間発表 検討・見直し 最終発表 自己評価 相互評価	テーマ研究 プラン フローチャート 研究 調査・実験 中間発表 検討・見直し 最終発表 自己評価 相互評価	卒業研究 ※1・2年次のテーマ研究を発展させた形で個人研究をできないか 現在模索中	【人間関係形成能力】 自他の理解能力 コミュニケーション能力 【情報活用能力】 情報収集・探索能力 【将来設計能力】 役割把握・認識能力 計画実行能力 【意思決定能力】 選択能力 課題解決能力	

5 いつでも、どこでも、なんどでも

思いがけない収穫

今までやってきたことの中に、キャリア教育のとっかかりがあると分かったのは、とても大きな収穫でした。たしかに、宮下先生がおっしゃったように、キャリア教育はずっと以前から全ての教育活動の中で行われてきたことだったのです。

キャリア教育という意識

ところが、それらはあまり意識されてこなかったために、キャリアがうまく蓄積・発展していったのではないかと……。また、キャリアを身につけるチャンスそのものも、教育の中から失われつつあるのではないかと……。そういう危機感から、今、キャリア教育の必要性が言われているのだと思います。

いつもの実践を連携プレーで

学ぶこととはたらくことをどうやってつなげていけばいいのか……。そのために、まず、日々の実践を見直すことから始めよう……。！と今回思いました。意外と、いつもやっていることの中にキャリア教育のとっかかりはあったのです。そして、その時大切なのは、教科間や学年間、学校間の連携はもちろん、地域や家庭との連携も視野に入れるということです。キャリア教育を実践するチャンスは、いつでも、どこにでも転がっています。機会を逃さず、なんどでも根気よく積み重ねていきましょう。そうして、少しずつそれは身につけていき、やがて本物の力、つまり現場で使える力となっていくのだと思います。